

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 02

学校名・団体名	岩泉町立岩泉小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	南部牛追唄を伝承しよう

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1.活動に至る経緯

岩泉小学校は東日本大震災では大きな被害はなかったが、太平洋に面する小本地区の小本小・中学校は校舎が津波を被って被災したことから、震災直後の1年間、小本小学校の児童・教職員が岩泉小学校の三階校舎に仮移転し、協力し合いながら震災後の混乱期を乗り切った経緯がある。さらに東日本大震災から復興の光が灯りつつあった平成28年8月、今度は台風10号豪雨災害が岩泉町を襲い、岩泉小学校学区は洪水により大きな被害を受け、もともと人口減少が進んでいたものが、震災・台風災害により一層過疎化が進んだ。少子高齢化は未来の問題ではなく岩泉地区では喫緊の課題である。そこで、ふるさとに愛着と誇りを持つ教育を推進し、将来にわたって地域を支えその発展に尽くす人間を育てる事が急務と考えた。

「南部牛追唄（歌）」は岩手県の郷土民謡であり、岩泉町が発祥の地とされる。「南部牛追唄」は、教育芸術社4年教科書の鑑賞教材として取り上げられ、全国の小学4年生が学習している。しかし、地元の岩泉町ではこのことはあまり知られていない。また、南部牛追唄保存会が伝承活動を続けているが会員は高齢化により後継者育成を切望し「子どもの頃に南部牛追唄を好きになってもらいたい。」「大人になって、どこで暮らしていても、ふるさとの誇りの南部牛追唄を一節歌える人になってほしい。」と願っている。岩泉小学校では、学校と家庭と地域が連携し、地域の宝である民謡「南部牛追唄」を伝承する活動を通してふるさと学習を推進していこうと考え本主題を設定した。

ちゅうでん教育振興助成をいただいて作成したジュニア用南部牛追唄ロゴ入り半纏は、児童が演奏時に着用した。この半纏は、岩泉町内の福祉授産施設「いずみのさと」で障がい者の方々が作成しており、岩泉町内では、「南部牛追唄」のシンボリックな衣装となっている。児童の半纏着用は地域の皆さんに「かわいらしい」と大好評であった。



助成により作成したジュニア用「南部牛追唄」半纏

2.時期

平成30年6月～平成31年1月

3.活動内容

(1)「南部牛追唄」の歌唱に取り組む。(平成30年6月)

- ・日本の音楽を聴き取ったり表現する活動を通して日本の音楽の特徴やよさを味わい身近に感じる。
- ・南部牛追唄保存会のみなさんから「南部牛追唄」を教えていただき、長い間受け継がれてきた郷土の音楽文化を知り、大切にす。

(2)「南部牛追唄」の器楽合奏に取り組む、学習発表会、町の小・中学校ステージ発表会や歳末助け合い演奏会、岩手県移動芸術祭等で「南部牛追唄」を演奏。

(3)「南部牛追唄全国大会」に出場。

岩泉小児童9名が平成30年度第32回南部牛追唄全国大会年少の部に出場。(平成29年は4名。その前年までは地元児童の出場はしばらく途絶え平成29年に15年ぶりの地元児童復活であった。)



牛追唄でふるさとへの
誇りと愛着を育てたい

岩泉小学校
高橋和江校長



若い人たちに牛追唄を
うたい継いでほしい

南部牛追唄保存会
橋本昭雄会長



きました。保存会のメンバー3人が
訪れ、息の継ぎ方や声の出し方など
を児童たちに指導していました。田
村宗之助君は「今日習ったことを、
本番でも生かしたい」と意気込んで
いました。

来年3月で閉校を迎える浅内小
（関川寛司校長・児童6人）も大会
に参加しようと練習を重ねてきた
。9月10日、町民会館には岩泉小
と浅内小の児童計11人が集まり、歌
声を響かせていました。橋本会長は「大
と人ひとりにアドバイスを送って
いました。」

高橋校長は「岩泉小はコミュニ
ティ・スクールに指定されている地
域と共に作る学校です。南部牛追唄
の学習を通して、ふるさとへの誇り
と愛着を育てたい。大人になっても
うたい継いでほしい」と願っています。

岩泉小では、助成金を活用し、南
部牛追唄はみんなで歌い、高橋校
長が異動したとしても、学校の伝統
として、子どもたちに南部牛追唄を
うたい継がせたいと考えます。

橋本会長は練習と研究を重ねて、
次の世代にうたい継いでほしい。こ
れからも、うたい継いでいくと望
んでいる子どもがいると語り続け

発祥の地、岩泉で、
次の世代に残せるか

南部牛追唄全国大会が初めて開催
されたのは昭和61年。本年度は20回
を迎えました。

南部牛追唄を町内外で継承しよう
と活動しているのが南部牛追唄保存
会（橋本昭雄会長・会員15人）で
す。昭和63年11月に結成した岩泉民
謡愛好会が平成10年1月に改称し、
南部牛追唄保存会となりました。現
在は、会員同士の練習や町内外での
イベント参加を通して、南部牛追唄
を愛護し、会員を拡大しようとして
活動しています。

「岩泉小の高橋校長から児童たち
に牛追唄を教えるのはいい声掛け
られたことがきっかけで、子どもた
ちへの指導が始まった」と橋本会長
は振り返ります。

岩泉小（高橋和江校長・児童
149人）の高橋校長は「正前社
長。農家に「南部牛追唄の発祥の地、
岩泉で本物の唄をうたうために継
がせたい」と考え、保存会に指導を依
頼しました。自らも保存会の会員に
なり、練習を重ねています。

「岩泉小の4年生19人は7月18日、
『ふるさとの音楽を愛しむ会』を開

いね」と涙面の笑みを見せます。
同保存会では大会が終わった後も、
活動を続けています。毎月第2、4
日曜日の午後6時から1時間は子
どもたちが指導し、その後は会
員たちが練習を重ねています。

保存会と岩泉小は、町内の小学
校に「南部牛追唄を習ったみんな
か」とチラシを配り、他校の児童
にも牛追唄を広めようという活動
を行っています。

橋本会長は「うたい継いでい
れば、大人でも子どもでも教えに行
きます。他の学校の子どもたちにも
南部牛追唄の輪が広がる」と期
待していました。



発声の仕方などの指導を受ける岩泉小の児童たち



岩泉小学校2年（左から）
戸来 優里花さん
佐藤 心愛さん
佐々木 聡士郎君

ステージに立ったときは少し
緊張したけど、うまく、う
たうことができました。練習
では声の出し方や伸ばし方
を習い、家でもたくさん練習
をしました。休み時間に「牛追
唄ごっこ」をして遊んだりも
しています。人前で思うよう
にうたえませんが「深呼吸するといよいよ」と教
えられたとき、緊張が和らぎました。
うたい終えたとき、たくさん
の拍手が起きて、うれし
かったです。これからも、う
たい継いで、私たちが牛追唄
をうたい継いでいきたいです。

Interview
私たちが、うたい継いでいきたい



次の世代へと
うたい継がれる
私たちの南部牛追唄



佐藤 和志君
(岩泉小5年)

私たちが
うたい続ける

町内から15人の小学生が大会出場
希望の光を輝かす

町では「南部牛追唄」と「南部牛方節」
を町の無形民俗文化財として指定しています。
無形民俗文化財とは、地域に根差し、
世代を超えて受け継がれてきた祭りや芸
能などのことをいいます。町内外の皆さ
んに価値を再確認してもらうことが指定
の目的の一つです。そのほか、保存会の
活動への支援も行っていきます。

しかし、継承はうたい手がいない
ば次の世代に受け継いでいくことは困難
です。

このような中、今回の大会で町内の小
学生15人が出場してくれたいことは希望
です。みなで育った南部牛追唄を忘れること
なく、これからも、うたい継いでくれる子どもたちを
うたい継いでくれる子どもたちを



戸来 優里花さん
(岩泉小2年)



平石 真希さん
(岩泉小5年)

もしません。

南部牛追唄全国大会を続けていくこと
も伝承につながる方法の一つです。全国
から集まるの目標を達成するだけでなく、
大人から子どもまで年齢を問わず、町
の皆さんに関心を持ってもらうことで、南
部牛追唄をうたい継いでいる人が増
えるきっかけになるはずです。



浦本 文太郎君
(岩泉小5年)



佐藤 和志君
(岩泉小5年)



山本 悠希君
(岩泉小4年)



田村 宗之助君
(岩泉小4年)



八幡橋 良太郎君
(岩泉小4年)



佐藤 和志君
(岩泉小5年)

4.児童・地域への効果

- 児童は、岩泉町発祥の民謡「南部牛追唄」について知ることにより、郷土の誇りとして「南部牛追唄」を大切に歌い継ごうとする態度が育っている。
- 児童は、民謡「南部牛追唄」を伝承する活動を通して、ふるさと岩泉に愛着と誇りを持つようになってきている。
- 児童は、ステージ発表活動や南部牛追唄全国大会出場をとおして、大勢の人々の前で堂々と演奏する態度が身に付き、自信をもって歌ったり発表したりできるようになった。
- 児童の演奏や伝承活動が、東日本大震災、台風10号災害等で沈みがちだった地域の方々の心を励ましている。